



成隣だより

平成27年10月1日
第6号
昭島市立成隣小学校
校長 長野 基

開校記念日

校長 長野 基

2学期が始まり1か月が過ぎました。この1か月間は、日本中で起きた自然災害の恐怖を強く感じる中で、近い将来起きるであろう首都直下地震への備えは万全なのかと考える日々でした。9月は防災月間でした。各家庭に配られた「東京防災」はもう読みましたか？また、インターネット環境がある家庭は、消防庁の「防災マニュアル」も参考になると思います。“自分の命は自分で守る”ために、自分の生活の場を想像してみてください。自分のいる場所で、季節、天気、時間帯などによって、“その時自分はどうか！？”を、常にシミュレーションしておかないと、本当に動けないのではないかと思います。そしてその時必要なものは何か？常に持ち歩くものと、家に備えておくべきもの、今一度考えてみてください。人間には、「自分は大丈夫。」「まだ大丈夫。」「ここは大丈夫。」など、自分に都合の悪い情報を無視したり過小評価しようとする特性（正常性バイアス）があるようです。

さて、10月8日は成隣小学校の開校記念日です。142年という長い歴史に支えられて、地域の方々とともに歩んできました。年に一度はぜひ成隣小学校の歴史を振り返っていただき、今まで以上に地域のためにある学校として親しんでいただき、成隣の子供たちの健やかな成長を見守っていただけると幸いです。

皆さんご存じのように、本校は今年が142年目の市内で最も歴史のある学校です。明治6年5月に観音寺を校舎に充て『執中学舎』として創立されました。その後、阿弥陀寺に移り、明治23年6月に再び観音寺を校舎としました。明治25年4月の小学校令により成隣尋常小学校となり、明治26年10月に現在の場所に校舎を建て移ったときを開校としています。それが10月8日でした。その頃の校舎は、教室が3つ、講堂が1つで、校舎の建築費用はすべて地域の有志の方々の寄付でした。校舎は文部省が設計し、窓には西洋ガラスが使われていて、当時としては近代的な建物でした。文部省を通じて全国から多数の教育関係者が校舎を視察に来たようです。敷地内には校長先生の住まいがあり、3年後には教員住宅もできました。大正15年には校舎が増築され、教室が6つになりました。昭和21年には今の体育館あたりに、軍の施設を払い下げて西校舎として6教室を増やしました。学校用の建物ではないため相当使いづかったようです。明治26年（大正15年に一部増築）以来60年間に渡って親しまれた北校舎は、昭和27年に木造2階建て校舎に新築で建て直されました。そして創立80周年の昭和28年10月8日に記念式典を行い、その席で成隣小学校で初めての校歌が披露されました。ちなみに現在の校舎は昭和42年に鉄筋コンクリート作りで建てられたものです。



玄関より左側が明治26年開校時の校舎。

玄関より右は大正15年増築。

後方は、昭和12年増築の青年学校校舎。

敷地内には校長先生の住まいがあり、3年後には教員住宅もできました。大正15年には校舎が増築され、教室が6つになりました。昭和21年には今の体育館あたりに、軍の施設を払い下げて西校舎として6教室を増やしました。学校用の建物ではないため相当使いづかったようです。明治26年（大正15年に一部増築）以来60年間に渡って親しまれた北校舎は、昭和27年に木造2階建て校舎に新築で建て直されました。そして創立80周年の昭和28年10月8日に記念式典を行い、その席で成隣小学校で初めての校歌が披露されました。ちなみに現在の校舎は昭和42年に鉄筋コンクリート作りで建てられたものです。

学校を知ること、学校や地域への思いが強くなります。7168名の卒業生の思いを大切に、これからも地域の学校として多くの方々とつながりを深めていきたいと思っています。